

曲目の紹介

◆「入間川」 いるまがわ

大名 山本 則孝
太郎冠者 若松 隆
入間の某 山本 則重

訴訟の件で長い間、都へ留めおかれた大名ですが、ようやく、願いが叶い、太郎冠者を伴って意気揚々、東国の国元に帰ります。すべて望み通りになった上、新たな領地まで拝領した嬉しさに天下を取った大きな気分で大名、どうしても川の名前が思い出せません。そこで川向こうの人に尋ねますが、横柄な物言いをしたため、同様に言い返されてしまいます。怒った大名は太刀を抜きかけますが、太郎冠者になだめられて丁寧に問い直します。川の名を「入間川」と教えてもらった大名は心の中で「入間の逆さ言葉」を使っただけ返しをする機会を伺います。

◆「布施無経」 ふせないきょう

住持 山本 東次郎
檀家 山本 凜太郎

今日はいつもの檀家に定齋（日時が決まった齋、齋は僧侶の食事のこと）に行く日であるが、ある方からどうしても来て欲しいとの依頼があつてそこで齋も済ませてきた。その後、いつもの檀家へ行き、わけを話して齋は辞退、早速、経を上げる。ところが、いつもと勝手が違つたためか、檀家はお布施を忘れていた。一度くらいは仕方がないと思つて帰りがけるが、これが例になつては困ると思ひ直し、檀家へ戻つた住持、以前から頼まれていた教化（仏道の教え、導き）をしましよつと、それに引つ

掛けて何かとお布施のことを思い出してもらおうと苦心する…。

◆「鎌腹」 かまばら

夫 山本 泰太郎
妻 山本 則重
仲裁人 山本 則俊

あちらこちらの家で頼まれ仕事をしているため、自分の家の雨漏りさえ直す暇のない夫、ようやく帰宅したものの、待ち兼ねていた妻に、山へ行つて薪を取つて来るよう言われ、決つてみると、我慢の限界を超えたと一言で打ち殺して自分も死んでやると言つて追い回す。仲裁人になだめられて山へ向かつた夫であるが、いつそのこと自分も死んでしまおうと、できるだけ楽に死ぬる方法をあれこれと考へ始める…。

◆「文化功労者」祝賀セレモニー

東次郎のおはなし

○重要無形文化財各個指定（入間国宝）
重要無形文化財に指定される芸能を高度に体現できる者。

○日本芸術院会員

芸術上の功績顕著な芸術家を優遇するための栄誉機関。会員は終身制で、新会員は部会の推薦によつて文部科学大臣が任命する。

○文化功労者

日本において、文化の向上発展に関し特に功績顕著なるものを指す称号。文部科学大臣が決定し顕彰する。文化人にとつては文化勲章に次ぐ荣誉となつてゐる。

演者の紹介

山本 東次郎 やまもと とうじろう 昭和十二年生
狂言方大藏進、山本東次郎家四世、三世東次郎の長男
山本会を主催。
平成四年度芸術選奨文部大臣賞受賞。
平成十九年芸術祭優秀賞受賞。
平成十九年日本芸術祭優秀賞受賞。
平成十九年重要無形文化財総合指定。
平成二十二年七月八日人間国宝認定。
令和四年文化功労者（狂言のことだま）（ごらも玉川
大学出身）
令和四年文化功労者（若手）（若手）（若手）
東京都杉並区在住

山本 則俊 やまもと のりとし 昭和十七年生
狂言方大藏進、三世東次郎の三男。
平成十九年芸術選奨優秀賞受賞。
重要無形文化財総合指定。東京都町田市在住。

山本 泰太郎 やまもと やすたろう 昭和四十六年生
山本則俊の長男。父および東次郎に師事。
昭和五十二年「二番三」の子役で初舞台。
平成五十二年「三番三」の子役で初舞台を披く。
平成二十三年日本文化庁文化振興奨励賞受賞。
令和四年「枕物狂」を披く。
重要無形文化財総合指定。開き研鑽の場として、重要無形文化財総合指定。狭山市立南小学校出身。

山本 則孝 やまもと のりたか 昭和四十八年生
山本則俊の次男。父および東次郎に師事。
昭和五十二年「伊呂波」で初舞台。
若手能楽部「三三三」を披く。
重要無形文化財総合指定。狭山市立南小学校出身。
狭山市在住。

山本 則重 やまもと のりしげ 昭和五十二年生
山本則俊の長男。父および東次郎に師事。
昭和五十七年「伊呂波」で初舞台。
平成十九年「三番三」を披く。
重要無形文化財総合指定。開き研鑽の場として、重要無形文化財総合指定。を披く。
重要無形文化財総合指定。を披く。

山本 則秀 やまもと のりひで 昭和五十四年生
山本則俊の次男。父および東次郎に師事。
昭和五十四年「三番三」を披く。
重要無形文化財総合指定。を披く。

山本 凜太郎 やまもと りんたろう 平成五年生
山本泰太郎の長男。父および東次郎に師事。
平成九年「伊呂波」で初舞台。
平成二十八年「伊呂波」を披く。
狭山市立南小学校・中学校出身。

若松 隆 わかまつ たかし 昭和三十四年生
東次郎に師事。
平成二十八年「三番三」を披く。

狂言入間川を観る会
山本東次郎「文化功労者」顕彰記念
第二十七回

◆「入間川」 山本 則孝 若松 隆 山本 則重
◆「布施無経」 山本 東次郎 山本 凜太郎
◆「鎌腹」 山本 泰太郎 山本 則重
◆「文化功労者」祝賀セレモニー
◆狂言のお話 山本 東次郎

令和5年 3月12日(日) 開場12時15分 開演13時
狭山市市民会館 大ホール
鑑賞券(全席指定)
前売り券：S席3,500円 A席2,000円 学生割引 A席1,000円
発売開始：令和5年1月10日(火)
お申込・お問合せ：●窓口販売 狭山市市民会館 TEL 04-2953-9101
●TEL・FAX 申し込み 狂言入間川を観る会 担当 瀧口宏輔 TEL・FAX 04-2957-2740
お支払いは下記口座へ、申込枚数を記入してお振り込みをお願い致します。
郵便振込口座 00140-6-172727 名称 狂言入間川を観る会

狂言講演会(共催 中央公民館)
狭山市の若手狂言師
山本泰太郎、則孝、凜太郎による事前学習会
日 時 2月6日(金) 14:00~15:30
会 場 狭山市市民交流センター 1階コミュニティホール
定 員 先着 100人(Tel 申し込み) 入場無料
申し込み・問合せ先 中央公民館 04-2952-2230

「新型コロナ感染防止」の
お願い
●ひきつづき検温、マスク着用、
手指消毒をお願いいたします。
●例年行っておりました山本家
との懇親会は、感染防止のため
中止にいたしました。